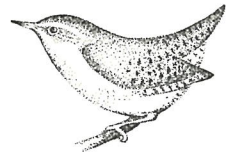


「同志社歳時記」 余滴二、三



生 島 吉 造

でテイラー旧宅にたたずみその感銘を深くした。ポストン埠頭の事故で亡くなったテイラーはまだ四十歳、ときに新島は二十六歳。港町チャタムは同志社と新島にとっても米国のふる里である。

国際的に生きた人々

さきに「同志社歳時記」編集を思いいつてすでに七年、「続」篇の着手にかかってからでも三年。その道程をいまふりかえると、まるで薄墨の山水画のようで、ただ記憶にあることは暗中模索の遅々たる足どりと、壁にぶちあたるごとに再々筆を折ろうと思ったことなどである。それにしても実に多くの方々―五百数十名―のご援助とご協力をえたが、ひるがえってただ感謝の念でいっばいである。本書は同志社紳士録でも Who's Who でもない。無名、有名の同志社人の生きざまの記録である。

ケーブ・コッドの港町チャタム

はじめて新島襄が大阪から京都にきた道は、暗峠をこえ奈良、宇治、坂本を経て比叡山にのぼり、雨中の白川路を下って京都・三条にいたる迂回路であったが、そのアメリカへの航路もインド洋、大西洋を西に、いくつかの岬をまわりボストンに上陸。同志社ルーツの出発点は函館、ボストンであるとともにチャタムであった。港町チャタムは A・ハーディ、テイラー船長、さらにシアーズ家のふる里で、新島がアーモスト卒業までの三年の夏、長期にわたり滞在したのもこの町であった。昨夏、私はこのチャタム歴史協会 Chathan Historical Society を訪問、J・A・ニッカーソン館長の案内

「同志社を助けられた外客に不情の措置あるべからざること」は松山高吉のつよい意見であったが、ともすれば忘れがちなことは、同志社を援助した海外篤志家、宣教師たちのことである。それとともに、同志社が標榜する国際主義に献身した卒業生たちのこと。たとえば韓国の金末峰、尹東柱（資料は国会図書館の宇治郷毅、釜山の任文植両氏による）、北京の清水美穂、ハワイの奥村多喜衛、樋口貫、パークレイの内田堯、郁子夫妻、ロスアンゼルス の熊井隆之助、安部清蔵、テキサスの西原清東、ニューヨークの家永豊吉、上出雅孝、ブラジルの古谷重綱、小林美登利、ペルーの森本市太郎など。その資料蒐集には各地関係者の数々の支援をえたが、「本を編集することは歩くこと、

手紙を書くこと」だと、共編者、松井金さんとともに痛感した。

木村熊二の場合

たとえば明治女学校と小諸義塾の木村熊二の場合である。「新島襄先生年譜」の一八八八年五月八日の記事を手がかりに、東京女子大学、比較文化研究所の「木村文書」を訪れ、また、青山なお著「明治女学校の研究」により、新島の青年時代の交友、木村熊二、吉田賢輔、尺振八などのことが展開され、新島襄―津田仙―勝海舟―木村熊二の人脈の端緒を



小諸城跡にある木村熊二のタブレット

えたことは、本書編さん中の思わぬ副産物だったと思う。藤村の「春」に描かれた明治女学校で、わが国の婦人文化の先駆者たちを育てた青柳猛、磯貝由太郎、湯谷礎一郎は同志社出身であったし、青柳猛の妻、はるよ、山室軍平の妻、幾恵子もまたこの女学校の生徒であった。上州安中と信州小諸の距離が近いように、同志社の新島と明治女学校の木村熊二の関係はさらに密であった。同志社の歴史は相国寺畔から展望するとともに、また、東京から京都を遠望することのたいせつさの示唆をうけた。

戦没者と挫折したものの

戦後三三年、同志社はせめて戦没者の氏名とその概数だけでも記録にとどめることはできないだろうか。「人間を大切にすること」とは、一人の人間を覚えることにはじまる。昨今、刊行された二、三出版物の中でさえ、同志社出身と明記したのを見受ける。こんな立場から「歳時記」では、篠崎二郎、松原成信、加藤出雲、福島見一の四名を、「続」

では、フィリピンで戦死した中嶋正義はか二十名の戦死者を掲げることができた。毎日新聞社刊「ああ同期の桜」には海軍予備学生第十四期会から、「帝国海軍の臨時雇いの士官として戦死」したものの三九五人のうち、五人の同志社大学生が記録されている。海外の多くの大学では、過去の戦争で逝った出身者の氏名を、一名の脱落も一人の追加もなく、正確に、銅板、大理石に刻みこみ、その息子たちの生命を傷んでいる。母校とはそんなものである。戦争の結果いかにかわららず、母校は出身者の命を等しく記念してもよいのではなからうか。

戦病死だけでなく、病氣、事故のため挫折した記録も。大島みち子の日記「病院の外に健康な日を三日下さい」という女子学生の祈りは、なにもまして心にせまるものがあつた。

おわりに、貴重な示唆と数々の教えを恭かたじけなくなくしたオーテス・ケリー、北垣宗治かたがね教授、手塚竜麿氏などに、あつくお礼を申しのべたい。

（同志社歳時記）共編者・元香里中・高校校長